

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円 お問合せ：03-6684-6692

5月11日（土） 迷いからの脱出ー私の愚かな脱出法
福田亮成 先生 大正大学名誉教授

5月25日（土） エックハルトの因果一如の思想
田島照久 先生 早稲田大学名誉教授

6月8日（土） 迷いからの脱出ー死生学へのいざない
菅原伸郎 在家仏教協会理事長

6月22日（土） 迷いからの脱出ー無所得の救い
竹村牧男 先生 東洋大学学長

9月14日（土） 迷いからの脱出ー問いの中に答えあり
武田定光 先生 真宗大谷派因速寺住職

9月28日（土） 迷いからの脱出
佐藤 研 先生 立教大学名誉教授

10月12日（土） 迷いからの脱出
大童法慧 先生 曹洞宗徳成寺副住職

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 お問合せ：06-6346-7000

5月17日（金） 愚禿の悲歎
田代俊孝 先生 仁愛大学学長

6月21日（金） 聖時間を持とう
真城義麿 先生 真宗大谷派善照寺住職

9月20日（金） 維摩経を読む
西村恵信 先生 花園大学名誉教授

いのち尊し

第25号
いのち尊し
令和元年5月1日
公益社団法人 在家仏教協会
〒101-0062
東京都千代田区 神田駿河台3-3 五明館ビル202号
TEL 03-6684-6692
FAX 03-6684-6709

「輪読会・鈴木大拙を読む」へのお誘い

菅原伸郎

（在家仏教協会理事長）

在家仏教協会は六月から、東京・駿河台の事務所です。輪読会・鈴木大拙を読むを始めます。当面は毎月一回、第三水曜日の午前十一時からの予定です。十人ほどがテールを囲み、名著を時間をたっぷりかけて読み進みます。まず、あらかじめ引き受けていた会員が一時ほどかけて解釈と感想を報告し、さらに一時間ほど、質問したり意見を述べ合ったりします。参加希望の方は別項の案内をご覧のうえ、六月上旬までにお申し込みください。

風な漢語や熟語も登場しますが、大拙先生の著作の中ではやさしい部類に入るでしょう。冒頭の「緒言」では、聞き慣れない「日本の霊性」という言葉が説明されています。さらに禪と浄土などの思想が簡単に解説されています。第一回の集まりに参加される方は、この二十ページ弱をあらかじめお読みになっておいてくださるようお願いいたします。本論の第一篇では、まず仏教渡来以前の精神風土について、やや皮肉っぽく述べられます。戦時中の「大和魂」などをからかってもいいのですが、厳しい言論統制の行われていた時代によくぞ書かれた、と思わせるをえませぬ。

*

第一シリーズは鈴木大拙著『日本の霊性』を取り上げます。太平洋戦争の敗色が濃くなったころ、日本と仏教の将来を憂いた著者が、いわば遺言のような筆致で発表した一般向けの解説書です。やや古い

が深化されていき、現実をいったん否定する禅の思想や親鸞の世界が紹介されます。第三篇は「法然上人と念仏称名」と題して浄土思想の発展が語られます。第四篇は「妙好人」と題されて、赤尾道宗や浅原才市ら、民衆の真宗思想が語られます。そして第五篇「金剛経の禅」では禅思想の極意が語られるのですが、ここは少し難しいかもしれません。

*

テキストには『日本の霊性 完全版』（角川ソフィア文庫、二〇一〇年刊）をご用意ください。末木文美士氏の注釈が載っているからです。もちろん、これまで親しまれてきた大東出版社版『日本の霊性』、岩波文庫版『日本の霊性』、岩波書店版『鈴木大拙全集』第八巻をお持ちになっても構いません。ただし、岩波版の二冊では、最終章の「金剛経の禅」が筆者自身によって省かれています。

大拙先生は、まず臨済禅を学んだうえで浄土の世界にも分け入った在家者です。私たちの在家仏教

協会もこれまでの講演会活動を通じて、似たような世界に親しんできたように思います。その辺りをごいっしょにさらに深めて参りたい、会員同士の交流の場を作りたい、そして先行きのやや苦しい協会に新しい風を入れたい、という願いから試みる輪読会です。ご参加をお待ちしています。

◇

開催日時：第1回は令和元年6月19日（水）より。11時～13時。毎月第3水曜日で、続いて年内は7月17日、8月は休会、9月18日、10月16日、11月20日、12月18日。

場所：協会事務所（東京都千代田区神田駿河台3丁目3番 五明館ビル202号、JR御茶ノ水駅より徒歩5分）
テキスト：鈴木大拙著『日本の霊性 完全版』（角川ソフィア文庫）
募集人数：10名（最小催行数5名）

参加費：500円/回
申し込み先：在家仏教協会事務局
電話・FAX・メール（kamimura@zaikobukyo.com）にてお申し込み下さい。

小倉紀蔵著『京都思想逍遙』(ちくま新書)

荒木稔恵 (在家仏教協会会員)

「京都思想」と見ただけで、西田哲学に日ごろ関心をもつ者は「京都学派」を連想してしまいがちです。たしかに著者は、西田幾多郎にも言及しています。しかしそれだけでありませんでした。日本の首都(みやこ)として千年、そこに繰り広げられた貴人の、あるいは庶民の生死が遺した無量の「悲哀」、(たましい)の声なき声、音なき音に耳を傾けた、まことに驚くべき逍遙の記録、京都論であり案内書でした。

著者は、「京を歩くことは、祈ること」と言い、歴史に沈み、現在(いま)もそこに感取される「悲哀」を、「生のかがやき」と讃えます。それはつぎのある外国人の日本文化観への反論につながるものに思えました。藤原定家の「春風に我がことの葉のちりけるを花の歌とや人の見るらん」の「ことの葉」について、「日本語

読者からの手紙

連続講演会「宗教と労働」を終えて

上村隆利 (在家仏教協会会員)

東京会場では一年間、「宗教と労働」をテーマに昨今の長時間労働による過労死や自死などに対し、宗教がどのような処方箋を示せるか、諸先生にお話を伺った。

私は四十年間、会社員として働いた経験をもとにこの問題を考えしてみた。まずは長時間労働がなぜ行われるかということであるが、その業種や職種はネットでも公開されており、予想どおり、業種としては、運輸、建築など、職種は営業、企画職などが目立っている。運輸などは人手不足が理由であるが、営業、企画職といったところは別の理由があると思う。私の経験からは、営業や企画職の労働時間管理は担当者自身の裁量によるところが大きかった。

反面、仕事の成果としては自己完結的なものはあまりなく、他の人との関係によって成り立っている。そのため、自分のために組織の目標の未達や、プロジェクトが

遅れることが他の人の迷惑になるといったプレッシャーが大きい。これが、長時間労働となり、過労死や自死に繋がる原因のひとつであると思う。

このように、過労死などは働く人の心の問題であることも大きいので、制度の改革だけでは片手落ちになってしまう。そこで、改めて宗教を考えてみたい。西欧のキリスト教社会では、プロテスタントの現世内禁欲という考え方によって、「働くこと」そのものが神によって救われている証と考えられた。日本における仏教は、通俗道徳と勤勉による労働の実践が人々を救うという考えによって、働く人々を支えてきた。これらは、「働くこと」の意味を宗教が私たちに教えてくれていたと言ってもよいのではないか。

「人はパンだけで生きるものではない」という聖書の教えのように、人々は、報酬だけではなく、働くことの意味を常に自分に問うている。仕事そのものから自己実現といった幸福な労働観が希薄になつていく時代であるからこそ、働くことの「ものがたり」を社会全体で考えていかなければならないと思つた。

ご寄付のお願い

当協会は、東京、大阪にて講演会活動を行っておりますが、その多くは寄附金によって賄われております。講演会の存続のために温かいご支援をお願い致します。

協会への寄附金は税制優遇が受けられます。個人様からの寄附と法人様からの寄附について、事例を上げてご案内いたします。

★所得税 所得金額から「寄付金(所得金額の40%が限度)12,000円」を控除することができます。

事例 年中の総所得金額が500万円、寄附金の合計額が20万円の場合 20万円×2,000円÷19万8,000円が、総所得金額より控除されます。

★法人税 法人が支出する寄付金は、その法人の資本金等の額、所得の金額に応じた一定の限度額までが損金に算入されます。このとき、公益法人に対する寄付については、一般寄付金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられております。

では言葉と言の葉という。この葉はもともと端という意味だ。日本人は言葉を大切にしないから、言葉のことを、こと(事)の端と名づけた。ほかの民族にとつて、言葉というののもつとも大切なものだ。言葉が真実(まこと)をあらわすと考える。だが日本人は言葉

を大切に思っていないので、事実のはしっこ、と呼ぶのだ」と。著者はそれに対して、「事実をすべて言葉であらわすことができるという世界観のほうが、うそのように思える。『こと』の内容と意味は海のように広く、深い」と。

著書は現役の京都大学大学院人間・環境学研究所教授。学生とともに、京都御所の東半分、北端に位置する京都大学から、東半分の南端の、かつて道元禪師が住まわれた興聖寺があつた深草まで、フィールドレックチャーとして逍遙を始めた記録といえます。そのレジメの豊かさは、『源氏物語』、『枕草子』、世阿弥の『風姿花伝』、鈴木大拙『日本的靈性』、その他その博識は歴史から文学史、思想史に及び、この一書を携えた京都探索は、心を震わせる一層深いものにするに違いありません。

事例

資本金が10億円、年中の所得金額が1億円の場合

- ①一般損金算入限度額Ⅱ(10億円×2.5/1000)+1億円×2.5/100)×0.25=125万円
②別枠の損金算入限度額Ⅱ(10億円×3.75/1000+1億円×6.25/100)×0.5=500万円

したがって、①②の合計額625万円の損金算入が認められます。

在家仏教通信

東京会場では連続講演会「迷いからの脱出」を開催中

人間はだれでも心の底に迷いや不安を抱えています。悪魔とも無明とも呼ばれます。呪術や占い、そしてオウム真理教事件もそこから育ってくるのかもしれない。仏教はどう教えてきたか、ともに学んでいきましょう。

講師には、福田亮成(大正大学名誉教授)、田島照久(早稲田大学名誉教授)、竹村牧男(東洋大学学長)、武田定光(因速寺住職)、

連続講演会「宗教と労働」を終えて

上村隆利 (在家仏教協会会員)

東京会場では一年間、「宗教と労働」をテーマに昨今の長時間労働による過労死や自死などに対し、宗教がどのような処方箋を示せるか、諸先生にお話を伺った。

私は四十年間、会社員として働いた経験をもとにこの問題を考えしてみた。まずは長時間労働がなぜ行われるかということであるが、その業種や職種はネットでも公開されており、予想どおり、業種としては、運輸、建築など、職種は営業、企画職などが目立っている。運輸などは人手不足が理由であるが、営業、企画職といったところは別の理由があると思う。私の経験からは、営業や企画職の労働時間管理は担当者自身の裁量によるところが大きかった。

反面、仕事の成果としては自己完結的なものはあまりなく、他の人との関係によって成り立っている。そのため、自分のために組織の目標の未達や、プロジェクトが

佐藤研(立教大学名誉教授)、大童法慧(徳成寺副住職)ほかの諸先生にお願いしております。

協会ホームページに講演会動画をアップしました

労働の場と個の確立 本多弘之先生 (親鸞仏教センター所長)

※ID .. 各自会員番号 パスワード: zaikembukyo

「大法輪6月号」へ在家仏教講演会の講演録が掲載されました

あらゆる仕事は「道」に通ず 鈴木正三に学ぶ 加藤みち子 (中村元東方研究所主任研究員)

在家のまま仏教を学ばれている皆さまにとつては「世法即仏法」を説いた鈴木正三和尚のことは、いづれかでお聞き及びになつたことがあるかと思ひます。「世法即仏法」とは、世俗の生活の中で仏教修行ができるということです。私は鈴木正三和尚に興味を持って研究をはじめたもの(続く)

原稿をお待ちしています

- ◇随想「仏教と私」(八百字以内) 人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動をお書きください。
◇読者からの手紙(八百字以内) 講演会(講演録)の感想などをお書きください。
◇コラム「この一冊」(八百字以内)

感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出しの本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

*

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、よろしければ職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用分には薄謝をお送りします。原稿の送り先は、〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-3-202 在家仏教協会「いのち尊し」係。メールはkaminura@zaikembukyo.comまで。